

立命館アジア太平洋大学 特別講演会

鄧小平以降の 中国の外交政策や 日中関係

参加費
無 料

かつて『ジャパン・アズ・ナンバー・ワン』で日本を席卷したハーバード大学名誉教授のヴォーゲル氏は、実は中国研究者としての顔も持っています。日中関係が不安定で、グローバル社会における日本の立ち位置が曖昧になっている今こそ、ヴォーゲル氏と一緒に私たちの進むべき道を考えてみませんか。

エズラ・F・ヴォーゲル

Ezra F. Vogel

Photograph by Lisa Cohen

エズラ・F・ヴォーゲル氏プロフィール

ハーバード大学ヘンリーフォードII社会科学名誉教授。
1958年、社会学博士号をハーバード大学で取得。
卒業後、日本に留学し、日本語や日本の家庭について学ぶ。
1961年秋からハーバード大学で中国研究を行う。
1967年、同大学の教授に。
1972年、ハーバード大学東アジア研究所所長、フェアバンクセンター所長、ハーバード大学アジアセンター初代所長、(学部)東アジア研究専攻設立・専攻長などを歴任。
1993年から1995年まで、クリントン大統領政権下で国家情報会議の東アジア国家情報官として勤務。
2000年にハーバード大学を退職後、鄧小平に関する研究を続ける。
国際交流基金や米日財団から勲章、ボストン日本協会から特別功労賞など、10個の名誉ある賞を授与された。
著書に日本でベストセラーを記録した『ジャパン・アズ・ナンバー・ワン』(1979)、同じく中国でベストセラーとなった『鄧小平』(2011)などがある。

日時 2013年 9月 9日 (月)
11:00 - 12:30

会場 立命館アジア太平洋大学
H棟 (大学院棟) 202教室

講演言語 日本語

主催: 立命館アジア太平洋大学
後援: 大分県、大分合同新聞社

ヴォーゲル氏は「豊の国かほす特命大使」として、大分県と縁があります。
立命館アジア太平洋大学アカデミック・アドバイザーにも就任しています。